

センターだより

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

第82号
令和7年9月26日発行

あおもり教育研究発表会2025のお知らせ

開催期日：令和7年11月14日（金）

開催場所：青森県総合学校教育センター



参加の申込みは、こちらの二次元コードの読み取りからできます。

※当日の講演や発表は、全てオンラインでのご参加が可能です。（要申込み）

※「センター研究発表」「2年目研究員研究発表」は、後日オンデマンド配信しますので、希望する場合は、お申込みください。（視聴可能期間：11月25日～12月26日）

【予定している発表等の内容】

- 9：00 受付開始
- 9：30 開会行事
- 9：40 2年目研究員研究発表
- 11：30 センター研究発表①
義務教育課、特別支援教育課
- 12：00 昼食・休憩
- 13：00 センター研究発表②
高校教育課【探究的な学びユニット】、教育相談課
- 13：40 センター研究発表③
高校教育課【特別支援教育ユニット】【学習評価等ユニット】、
高校教育課・産業教育課【遠隔授業ユニット】
- 14：20 講演「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の枠組みによる
主体的な学習者の育成」
北海道教育大学教職大学院准教授 川俣 智路 氏
- 15：50 閉会行事

【講演会】

講師：北海道教育大学教職大学院准教授 川俣 智路 氏

**演題：「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の枠組みによる
主体的な学習者の育成」**



公立小学校教諭を経て2015年4月～2024年3月まで茨城大学教育学部准教授。専門は教育工学、ICTを活用した教育実践研究。日本教育メディア学会理事、日本デジタル教科書学会理事、AI時代の教育学会理事。文部科学省学校DX戦略アドバイザー、文部科学省委託事業「主体的・対話的で深い学びの充実に資するデジタル教科書をはじめとするICT機器等を活用した効果的な指導に関する実証研究事業」有識者委員などを歴任。

2年目研究員研究発表

① 9:40～10:10

発表者	研究主題	発表会場
教育相談課 中嶋 龍之介	小学校高学年における心の居場所となる学級づくりに関する研究 ー共感的な人間関係育成プログラムの作成と実践を通してー	大研修室

② 10:15～10:45

発表者	研究主題	発表会場
産業教育課 中川原 泰文	小学校中学年における「批判的思考力」の育成に向けた学習プログラムの開発・実践 ー児童の深い学びにつなげる生成AIの活用を通してー	大研修室

③ 10:50～11:20

発表者	研究主題	発表会場
特別支援教育課 沖沢 都	中学校保健体育科体育分野におけるアダプテッドエコロジカルモデルに基づいた授業実践に関する研究 ー生徒の学習観の変容に着目してー	大研修室

センター研究発表

テーマ:一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて

① 11:30～12:00

グループ名	研究テーマ	発表会場
義務教育課	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方の研究	大研修室
特別支援教育課	省察と対話を核とした授業研究モデルの開発 ～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～	CAD・CG 研修室

② 13:00～13:30

グループ名	研究テーマ	発表会場
高校教育課 【探究的な学びユニット】	教科における探究的な学びに関する研究	大研修室
教育相談課	グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援 ～子供が自分らしくいられる関係性の育成～	CAD・CG 研修室

③ 13:40～14:10

グループ名	研究テーマ	発表会場
高校教育課 【特別支援教育ユニット】 【学習評価等ユニット】	青森県内の高等学校における特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究 「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の検討	大研修室
高校教育課・産業教育課 【遠隔授業ユニット】	遠隔授業（講習）による個別最適な学びと協働的な学びの実現 生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について	CAD・CG 研修室

展 示

展示場所	展示内容
特別支援教育課棟	特別支援教育教材・教具展示会
中研修室前	図書資料室にある書籍等の紹介、ポスター（センター職員の「わたしのお勧めの一冊」）
1階ロビー	令和6年度 2年目研究員研究ポスター

2年目研究員研究の紹介 Vol. 1

教育相談課 研究員 中嶋 龍之介

1

研究主題

小学校高学年における心の居場所となる学級づくりに関する研究
—共感的な人間関係育成プログラムの作成と実践を通して—

2

研究目的

小学校高学年において、共感的な人間関係を育成するプログラムを実施することは、児童の心の居場所となる学級づくりに有効かを明らかにする。

3

研究概要

SELとグループ・アプローチを組み合わせたプログラム



自己肯定感を高め、対人関係スキルを習得して人間関係づくりを行うことで、学級での居場所感を高めることがねらい。

SEL - 8 学習プログラム (Social and Emotional Learning of 8 Abilities)

SELで共通して注目されている「社会的能力」を日本の教育事情に合わせて効果的に育成できるように工夫した学習プログラム

社会的能力

基礎的社会的能力	① 自己への気づき	応用的社会的能力	⑥ 生活上の問題防止のスキル
	② 他者への気づき		⑦ 人生の重要事態に対処する能力
	③ 自己のコントロール		⑧ 積極的・貢献的な奉仕活動
	④ 対人関係		
	⑤ 責任ある意思決定		

- SELを参考にアプローチする社会的能力を精選
- 5つの「基礎的社会的能力」の育成を中心に据えたプログラム構成
- 対人関係スキルの習得のみに留まらず、グループ・アプローチで習得したスキルを活用できるような協働的な活動場面も取り入れ、より良い人間関係の育成を目指す

対象：小学校5学年

時期：令和7年4月～7月

思春期の発達段階に差し掛かり、人間関係で悩みや不安を抱えることが多い高学年。その中でも多くの学校で学級編成が行われ、人間関係を新たに構築しなければならない年度初めの5学年にアプローチ。

使用尺度

○自己肯定感の変容→自尊感情測定尺度

○共感的な人間関係

『他者との間で、自分が大切にされ受け入れられているという被受容感を実感でき、侵害的な関係がなく、支えや助けを得られる関係』

→学校環境適応感尺度（アセス）

「友人サポート」「非侵害的な関係」「向社会スキル」

→居場所感尺度「被受容感」

○心の居場所

『児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所』

→居場所感尺度「安心感」「自己存在感」「充実感」

2年目研究員研究の紹介 Vol.2

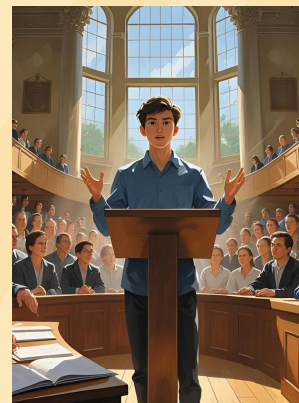
産業教育課

研究員

中川原 泰文

1 研究主題

小学校中学年における「批判的思考力」の育成に向けた学習
プログラムの開発・実践
一児童の深い学びにつなげる生成AIの活用を通して一



2 研究目標

学習ツールとして生成AIを活用した学習プログラムが、小学校中学年の児童に熟慮的な思考を深め、「批判的思考力」の育成に有効であることを実践を通して明らかにする。

3 研究概要（検証授業の実際）

Ⅰ：学習プログラム（2年目）

生成A Iリテラシー 特別活動 (学級活動)	1	生成A Iの長所・短所、ファクト チェック	ア 熟慮的思考を とまよう体験活動
	2	著作権	
批判的思考力育成 (省察をとまう 熟慮的思考) 国語 「一つの花」	1	物語の世界観を想像してから読み、 感想を書く	イ A Iアウトライン シートの活用
	2	挿絵を手がかりにして場面の設定 を捉える	
	3	A Iの意見と比較する活動を通し て、お父さんの気持ちを考える	
	4	「一つの花」に込められた願いに ついて考える	
	5	第3場面に「一つだけ」という言葉 が使われていない理由を考える	
	6	自分の考えを伝える文章を書く	
	7	感想や考えをもち、相手に伝える	
			ウ 思考表現活動

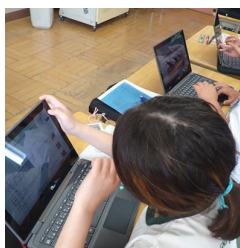
*生成A I は、学習の中で以下のように利用

- ①検索エンジン ②文章の例示
③登場人物になりきらせて利用
④文章添削

学習プログラムにおける生成AIリテラシー学習では、生成AIが提示した情報を基にファクトチェックを行うことで「熟慮的態度」の育成をねらいます。国語科「一つの花」では、AIで生成された文章を比較・吟味することで、「探究心」・「証拠の重視」・「論理的思考」を育み、その後、意見交流を通して「客観性」の育成を図ります。

II：生成A | リテラシー

批判的思考力の中の「熟慮的態度」の育成をねらい、生成AIが提示した意見について、複数の情報源から確認することでファクトチェックを行いました。



Ⅲ：国語科「一つの花」

批判的思考力の中の「証拠の重視」や「論理的思考」の育成をねらい、AIアウトラインシートを活用し、比較・吟味する活動を行いました。

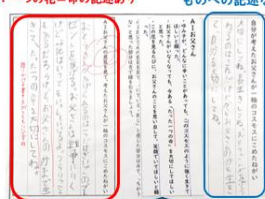


IV：分析・考察

[illegible]

A: 一つの花＝命の記述あり

B:一つの花が表す
ものの記述なし



AIを登場人物になりきらせて利用

テキストマイニングのワードクラウドや共起ネットワークを活用し、児童が書いたものの分析や事前・事後の尺度調査をWilcoxonの符号付順位検定を用いて分析しました。

生成AIを活用した学習プログラムは、小学校中学年児童の批判的思考力の育成に一定の効果が示唆されました。

2 年目研究員研究の紹介 Vol.3

特別支援教育課 研究員 沖沢 都

1

研究主題

中学校保健体育科体育分野における
アダプテッドエコロジカルモデルに基づいた授業実践に関する研究
一生徒の学習観の変容に着目してー

2

研究目標

中学校保健体育科体育分野におけるアダプテッドエコロジカルモデルに
基づいた授業実践が生徒の学習観に与える効果を明らかにする。

3

研究概要

「楽しい」を共に味わうために

これまで私は、生徒が運動の特性に応じた楽しさを味わえるようにすることを大切にしてきましたが、種目特有の技能習得の程度に差が生じることがあり、そのことが楽しさに影響してることがありました。

アダプテッドエコロジカルモデルに基づく体育授業は、一人一人の特性に応じて運動を検討するため、技能差などのちがいがあっても共に運動を楽しめる授業づくりが期待できます。

「楽しい」と思える授業づくりの手がかり

運動やスポーツへの肯定的な価値観の獲得や望ましい運動習慣の形成には、学校教育では体育授業が「楽しい」と思えることが大切です。

そこで、生徒の学習観に着目しました。教師が生徒の学習観を捉えることで、学習方法の検討や学習状況の把握に活用できる可能性があります。このことは、単に楽しい授業を提供するだけでなく、教科における資質・能力の育成にも重要な関連があります。

アダプテッドエコロジカルモデル

アダプテッド体育・スポーツにおけるアダプテッドとは、「ルールや用具を運動する人の特性に合わせて、修正や調整、変更、改善を行うこと」です。

運動を効果的にアダプテッドしていくために、アダプテッドエコロジカルモデルでは、「課題の適切さ」「動機づけ」「環境調整」を相互に関連させて検討していくことが大切です。

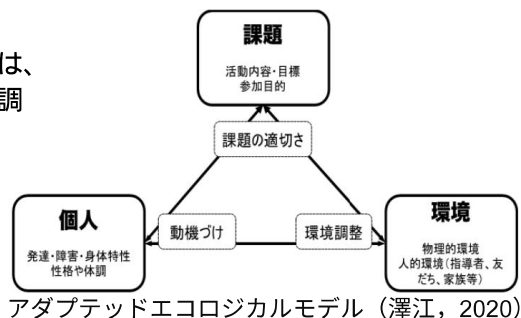
研究方法

対 象：中学校第2 学年

期 間：令和7年4月～8月（実態把握の期間を含む）

検証授業：球技：ネット型（バレーボール）全10時間

検証方法：中学生用体育学習観尺度及び中学生用体育学習法略尺度で体育授業の捉え方の変容をみる
共生体育態度尺度で体育授業における共生態度の変容をみる
1時間単位の振り返りシートで、学んだ内容や学び方の変容をみる
授業録画による様相観察でゲームの中でどのような態度や発言があったかをみる



アダプテッドエコロジカルモデル（澤江，2020）